

持続可能で責任ある調達【15,27,DMA,LA15,HR11,SO10,EN33】

花王のアプローチ

花王は法を遵守し、高い倫理観を持って公正・公平な購買活動を推進しています。持続的発展可能な社会の実現をめざし、資源保護・環境保全や安全、人権などに配慮し、企業としての社会的責任を果たします。

社会的課題と花王のアプローチ

花王は企業の社会的責任を果たすため、「調達基本方針」に則った「公正・公平」「遵法・倫理」「社会的責任」を基本姿勢とする持続可能で責任ある調達活動を推進しています。

購買取引を行なうにあたり、国の内外を問わず合理的な基準に基づき公正に競争の機会を提供し、法の遵守と倫理の尊重を実践します。

また、持続的発展可能な社会の実現への貢献をめざし、省資源、地球温暖化防止、生物多様性保全などの環境側面、安全・衛生、労働環境、人権などの社会側面に十分配慮し、企業としての社会的責任を果たしていきます。

→詳細は「調達基本方針」
http://www.kao.com/jp/corp_csr/procurement_00.html

方針

花王は「調達基本方針」に則った調達活動を具体的なものとするため、「調達先ガイドライン」および「原材料調達ガイドライン」を制定しています。

花王はサプライヤーを“よきモノづくり”に不可欠なパートナーと考え、「調達先ガイドライン」に基づき、調達活動に取り組んでいます。また、法令や社会規範の遵守、人権の擁護、安全衛生の確保、公正な取引等、社会的責任に配慮されているサプライヤーや、環境マネジメントシステムをはじめ、花王が配慮すべき環境項目にご協力いただけるサプライヤーからの調達を優先しています。さらに、環境に配慮した原材料や包装容器の調達を優先しています。

花王とサプライヤーとの間で締結する取引基本契約書においては、上記の環境・人権・労働などに関する条文を明記しています。

また、地球温暖化、生物多様性の劣化などの環境問題、資源制約や人権などの課題を踏まえ、「原材料調達ガイドライン」に基づいた持続可能な調達に取り組んでいます。

さらに花王は、事業が自然資本に依存していることを認識し、パーム油や紙等の調達に関しては原産地での森林破壊ゼロを支持しています。中長期的には、原材料の徹底的な使用量削減や、藻類のような非可食バイオマス由来の原材料等への転換に取り組むとともに、グローバル化により顕在化してきた倫理的な課題にも配慮して、持続可能で責任ある調達を推進します。

→詳細は「調達先ガイドライン」
http://www.kao.com/jp/corp_csr/procurement_04.html
 →詳細は「原材料調達ガイドライン」
http://www.kao.com/jp/corp_csr/procurement_05.html

体制

購買部門では、持続可能で責任ある調達を実行するための戦略を策定する企画部サステナビリティグループと購買部門サステナビリティ戦略部会を設けています。

その戦略のもと、原料部および包材部は「原材料調達ガイド

ライン」に則った調達を進め、間接材部は文具・事務用品などのグリーン購入、機器部は環境に対応した設備・機器の導入を推進しています。

教育と浸透

従業員研修や啓発を実施(日本)

花王では、新たに購買部門に配属された従業員に対し、「公正・公平」「遵法・倫理」「社会的責任」などの購買基本姿勢について教育しています。教育を通じてISO26000や国連グローバル・コンパクトで求められている、人権・労働などグローバルな社会的課題についての認識を持つようにしています。

2016年は、新たに購買部門に配属された従業員9人に対し購買基本姿勢について教育しました。

検定受験の推進(日本)

購買部門の社員一人ひとりが社会や環境との関係を認識し、行動を変革するための教育として、2012年度より環境社会検定試験®(eco検定※1)の受験を推進しています。

また、2015年からは、新たにビジネスコンプライアンス検定※2の受験を推進しています。2016年には部門の累計合格者は59%に達しました。

人権課題の啓発(日本)

花王における人権課題に対する認識を深めるため、購買部門の社員に対して英国現代奴隷法について教育を行ないました。

※1 eco検定

環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の促進をめざした検定試験。東京商工会議所により2006年から運営されている。

※2 ビジネスコンプライアンス検定

コンプライアンスを法令の背後にある「社会的要請に応えること」ととらえ、企業にとって重要な法令を体系的に理解するコンプライアンス・スキルの養成をめざした検定試験。サーティファイ コンプライアンス検定委員会により2005年から運営されている。

中長期目標

1. 持続可能な原材料の調達

認証原材料の調達

花王は森林破壊ゼロに向けた取り組みとして、パーム油、紙・パルプについて2020年までの持続可能な原材料の調達への切り替えをめざしています。

パーム油・パーム核油の調達においては、RSPO^{※1}に加盟して関連工場のSCCS^{※2}認証取得と認証油の調達を進めるとともに、2020年までの、原産地まで追跡可能なパーム油・パーム核油の全量調達へ向けた取り組みを進め、2015年末にはそれぞれのミル(搾油工場)まで追跡可能であることを確認しています。ミルまで追跡可能であることが確認できていない誘導体については、引き続き確認を進めるとともに、RSPO認証原料を購入するなどの補完措置を講じます。

紙とパルプの調達においては、2020年までに花王製品に使用する紙・パルプ、包装材料および事務用紙は、再生紙または持続可能性に配慮したもののみの購入をめざすとし、特にパルプは2020年までに原料木材産出地の追跡可能なパルプのみの購入をめざします。

天然植物資源の持続可能な調達

天然植物資源の枯渇や資源収奪の問題を認識し、ABS^{※3}を考慮した天然植物資源の調達を推進しています。また、原産地の自然環境やコミュニティに配慮しながら、調達ルートの多様化・変更や人工栽培品への切り替えにも取り組んでいます。

2. 人権への取り組み

さまざまな人権問題のリスクに対応するため、2015年に「花

王人権方針」を定め、花王の活動に加えサプライヤーへも「調達先ガイドライン」に基づく人権のための行動を要請し、人権デューデリジェンスを実施する方針です。

このリスクを評価するため、2014年に世界的な企業倫理情報共有プラットフォームであるSedexに加盟し、2017年よりSedexを活用したサプライヤーリスクアセスメントを行なう計画です。

2020年までにサプライヤーのSedex加盟率70%(国内:購入金額ベース)をめざします。

3. グリーン購入

文具・事務用品など間接材の購入においては、環境省が提唱するグリーン購入を推進するため、「グリーン購入基準」を定め、環境に配慮した物品を優先的に購入しています。

機器・設備の導入においても、LED照明の導入など環境対応を推進しています。

※1 RSPO(Roundtable on Sustainable Palm Oil)

持続可能なパーム油の生産と利用を促進するための円卓会議
<http://www.rspo.org/>

※2 SCCS(Supply Chain Certification System)

生物多様性保全のための厳しい条件をクリアし、RSPOに認められた農園で収穫した持続可能なパーム油を使った製品を生産・販売し、消費者に届ける目的でつくられたサプライチェーンシステム

※3 ABS(Access and Benefit Sharing)

先進国や多国籍企業による原産国(主として途上国)の生物資源(遺伝子資源)の収奪問題などに対応し、遺伝子資源の探索・開発とその利用から生じる利益の公正・公平な配分のことで、生物多様性条約の目的の一つとして規定されている

2016年の実績

1. 持続可能な原材料の調達

認証原材料の調達

・パーム油・パーム核油の調達

⇒詳細は「具体的な取り組み：持続可能なパーム油・パーム核油の全量調達に向けての取り組み」

・紙・パルプの調達

⇒詳細は「具体的な取り組み：持続可能な紙・パルプの調達に向けての取り組み」

天然植物資源の持続可能な調達

化粧品・医薬部外品に使用しているグリチルリチン誘導体は、マメ科植物である甘草から製造されます。これまで自生甘草

から製造されたグリチルリチン誘導体を使用してきましたが、生物多様性の保全と持続可能な利用に努めるため、2016年から栽培地が特定された栽培甘草から製造したグリチルリチン誘導体の使用を開始しました。

2. 人権への取り組み

⇒詳細は「具体的な取り組み：サプライヤーとの連携／Sedex(人権への取り組み)」

3. グリーン購入

2016年の「グリーン購入基準」達成率は78%でした。

ステークホルダーとの協働

持続可能な調達

パーム油および紙・パルプの持続可能な調達を、認証品の購入とトレーサビリティの確認の二つの方法で進めています。

認証パーム油および認証紙については、国内のサプライヤーにも認証取得を求め、調達を開始しました。

トレーサビリティの確認については、原材料サプライチェーン情報の第三者機関による検証およびリスクアセスメントを実施しています。

サプライヤーとの協働

花王は、Sedex、お取引先懇談会、品質向上会議、CSRセルフアセスメントのモニタリング、CDPサプライチェーンプログラム等さまざまな取り組みを通じて、サプライヤーとの連携を強化し、グローバルな調達の推進に取り組んでいます。

⇒詳細は「具体的な取り組み：サプライヤーとの連携」

具体的な取り組み

持続可能なパーム油・パーム核油の全量調達に向けての取り組み

グローバル

花王は、パーム油・パーム核油の調達において「原材料調達ガイドライン」に基づいた持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。またRSPOのメンバーとして活動し、追跡可能なサプライチェーンの構築に努めています。

「持続可能なパーム油」の調達ガイドライン

花王が扱う基本原料の一つであるパーム油・パーム核油の調達において、生物多様性の保全への配慮と、森林破壊ゼロへの支持を表明し、4つの目標を掲げて取り組んでいます。

目標1：2015年末までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、ミル(搾油工場)まで原産地追跡可能なもののみを購入することをめざします。

実績：2015年までに、サプライヤー情報によるパーム核油のミルまでのトレーサビリティを確認し、2016年には第三者機関によるサプライヤー情報の検証を行なうとともに、パーム油のミルまでのトレーサビリティの確認を進めています。

目標2：2020年までに、農園(プランテーション)、サプライヤー(ミル、リファイナリー)および第三者機関との協働により、原産地の森林破壊ゼロを十分に確認します。私たちは、保護価値の高い(HCV^{※1})森林、炭素貯蔵量の多い(HCS^{※2})森林および泥炭湿地林の開発に加担しません。

実績：2016年からトレーサビリティ確認済みの一部ミルに対して第三者機関によるリスクアセスメントを実施し、観察を要するミルが確認されました。今後、当該のミルに対して現地調査を実施します。

目標3：2020年までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、農園まで原産地追跡可能なもののみを購入します。

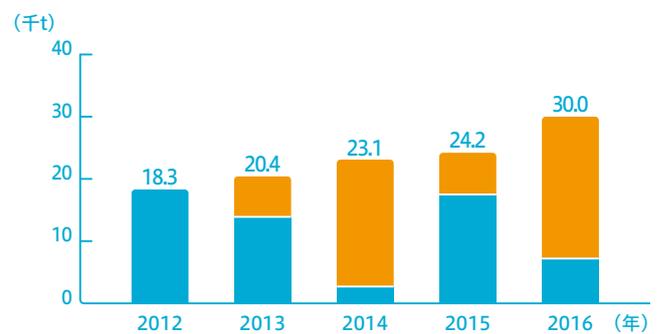
実績：2018年末完了をめどにパーム核を供給しているパーム油のミルの特定に努めています。また、小規模農家への原産地追跡をより確かなものにするため、2016年に第三者機関などとも協力しながら小規模農家への関わりを強めるプロジェクトについて調査を行ないました。

目標4：2020年までに、花王グループ工場のRSPO SCCS認証

取得をめざし、花王グループの追跡可能なサプライチェーンの構築に努めます。

実績：RSPO SCCS認証は、2012年3月の鹿島工場を手始めに、2016年末時点で国内外のグループ工場およびオフィスの24サイトで取得しています。

花王グループの認証油購入実績



■ Book and Claim方式^{※3} ■ Mass Balance方式^{※4}

※ 消費者向け製品におけるパーム油・パーム核油およびその誘導体の合計

IOIグループのRSPO認証停止に対する対応

2016年3月にパーム油サプライヤーであるIOIのRSPO認証が停止されました。花王は「原材料調達ガイドライン」の行動指針に基づき、IOIに事実を確認し、問題の解決を求めました。また、認証原料の購入を停止し、RSPOによって承認された是正計画の進捗が第三者によって客観的に検証され、改善が確認されるまで、調達を再開しません。

※1 HCV(High Conservation Value)

※2 HCS(High Carbon Stock)

※3 Book and Claim方式

RSPO認証のパーム油のクレジットを取引するシステム。RSPOにより認証された農園が生産、登録したパーム油の量に応じて発行された「認証クレジット」を購入することで、クレジットに応じた量の認証パーム油を購入したとみなすことができる。本方式では、農園での認証油の生産を促進することができる。

※4 Mass Balance方式

RSPO認証パーム油と非認証パーム油が混じることが許された認証システム。

持続可能な紙・パルプの調達に向けての取り組み

グローバル

花王は、紙・パルプの調達において「原材料調達ガイドライン」に基づいた持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。紙・パルプの調達において、生物多様性の保全への配慮と、森林破壊ゼロへの支持を表明しています。

「持続可能な紙・パルプ」の調達ガイドライン

目標：2020年までに、花王製品に使用する紙・パルプ、包装材料および事務用紙は、再生紙、または持続可能性に配慮したものののみを購入します。古紙パルプ以外のパルプ(バージンパルプ)を使用する場合は、原料木材産出地の追跡可能なパルプのみを購入し、サプライヤーおよび第三者機関との協働により、原料木材の産出地の森林破壊ゼロを十分に確認します。

実績：2016年末時点で認証品の購入と合わせて99%が追跡可能な紙・パルプとなっています。

2016年3月に国内で初となるFSC認証(森林認証)を受けた段ボールの導入を開始しました。2016年にはグローバルで使用する段ボールの50%をFSC認証品に切り替えるという当初の年間目標を達成しました。

サプライヤーとの連携

グローバル

Sedex(人権への取り組み)

サプライヤーのモニタリングを標準化された方法でグローバルに推進し、人権デューデリジェンスにおけるリスクの潜在個所を特定するため、2014年に世界的な企業倫理情報共有プラットフォームであるSedexに加盟しました。2016年末時点でグローバルで445社のサプライヤーが加盟しています。日本では、2016年に日本のサプライヤーに対し説明会を開催し、花王の人権課題等に対する取り組みおよびSedexのしくみについて説明し、Sedexへの加盟とデータへのアクセス権設定の要請を進めました。説明会には476社が出席し、2016年末で149社のサプライヤーが加盟し、購入金額の34%をカバーしています。

現在、国内外で行なっているCSRセルフアセスメントのモニタリング結果とあわせ、調達担当者の行なう調達先リスク評価の拡充に役立てていきます。

調達先ガイドライン遵守状況

環境、安全、法令と社会規範の遵守、人権・労働問題の取り組みなどを定めた「調達先ガイドライン」を制定し、その遵守状況のセルフアセスメントをモニタリングしています。

基準に満たないサプライヤーには、訪問して課題を共有するとともに、改善に向けた取り組みを実施しています。

社会面 モニタリング企業数と基準を達成している企業比率

	花王(株)取引先企業	アジア花王グループ取引先企業
2012年	860社(99%)	610社(97%)
2013年	883社(99%)	726社(98%)
2014年	906社(99%)	823社(98%)
2015年	1,168社(96%)	994社(98%)
2016年	1,602社(92%)	1,166社(98%)

環境面 モニタリング工場数と基準を達成している工場比率

	花王(株)取引先工場	アジア花王グループ取引先工場
2012年	767工場(99.6%)	463工場(98%)
2013年	818工場(99.5%)	541工場(98%)
2014年	879工場(99%)	608工場(97%)
2015年	1,254工場(97%)	750工場(97%)
2016年	1,616工場(94%)	838工場(97%)

お取引先懇談会を実施

花王では、毎年サプライヤーとの情報共有・意見交換の場として「お取引先懇談会」を開催し、年度ごとにテーマを決めてコミュニケーションを図っています。また、花王の海外主要関係会社においても、お取引先懇談会(Vendor summit)を開催し、サプライヤーとのパートナーシップの強化を図っています。

2016年のお取引先懇談会においては、「花王人権方針」、「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン(BCG)」の改定事前告知、持続可能な原材料の調達、間接材購買の集約化などの具体的な説明を行ない、サプライヤーとの連携強化の取り組みであるCDPサプライチェーンプログラム^{※1}への積極的な協力およびSedexへの加盟を依頼しました。また、2016年からお取引先表彰制度を開始し、「品質」「価格」「納入」「情報提供」「経営・サステナビリティ」の観点で優秀なお取引先を表彰しました。

お取引先懇談会出席会社数

(単位:社)

	国内開催	海外開催	合計
2012年	—	205	205
2013年	184	151	335
2014年	183	233	416
2015年	214	285	499
2016年	246	279	525

※花王(株)の決算期変更により、2012年国内お取引先懇談会の開催はありませんでした。

CDPサプライチェーン

花王は、資源制約、生物多様性の劣化や地球温暖化などの環境問題、人権問題などを踏まえ、持続可能な開発におけるリスクを認識し、持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。これらの取り組みは、サプライチェーン全体で管理することが重要であり、気候変動および水についてCDPサプライチェーンプログラム^{※1}に参加し、主要なサプライヤーに情報開示をお願いしています。また、森林資源に関わる項目はCDPフォレスト^{※2}に回答することを通じ、リスク評価を行なっています。

※1 CDPサプライチェーンプログラム

CDPとは、機関投資家の運営による、ロンドンに本部を置く非営利団体であり、気候変動、水、森林に関する情報開示を企業等に求める活動等を行なっている。サプライチェーンプログラムとは、メンバー企業が自らのサプライヤーに対し、気候変動・水にかかわる情報開示をCDPプラットフォームを用いて求める取り組み。

※2 CDPフォレスト

CDPIによる森林資源の管理・利用状況等の情報開示を企業に求める取り組み。

サプライヤーへの満足度を調査

日本

花王は、公正・公平な調達活動が行なわれているかを確認するため、「お取引先満足度調査」を3年ごとに実施しています。直近では、2016年に調査を実施し、「発注先選定」「品質」「発注」

「接客」「コミュニケーション」等についてお取引先より貴重なご意見をいただき、課題も確認されました。改善に向けた取り組みを行なっていきます。